

# 都心居住とパブリックスペースのカスタマイズ

角野 幸博 *Written by Yukihiro Kadono*

## カスタマイズとは何か

言うまでもないことだが、都市にはさまざまなタイプのパブリックスペースがある。道路や公園のように行政が維持管理の責任を負う場所、駅やデパートのように民有地だけでも不特定多数の人が自由に出入りできる場所、劇場やコンサートホールのようにお金を払えば利用できる場所、分譲マンションの共有庭のように地権者である住民たちが共同で使う場所など、思い浮かぶ。

多様な魅力的なパブリックスペースをつくることは、都市デザインの目標のひとつに違いない。広場や公園、歩行者空間などの整備は、まさに豊かなパブリックスペースをつくりだす行為であり、総合設計制度<sup>1)</sup>による公開空地の設定や、再開発地区計画制度<sup>2)</sup>による地区施設等の指定は、私有地の一部を公共空間としてひねり出すためのものである。

今や都市デザインの対象は、屋外空間ばかりではなく、ビルのアトリウムや地下街などの屋内空間にまで広がっている。また街並み整備のための諸制度は、たとえ私有地の建築であっても、見える環境には公共的性格があることを前提にしている。

ところが逆に、パブリックスペースを私的に使っている例を目にすることも多い。たとえば、店の敷地と道路との境界を越えて路上に商品を並



昼休みのオフィス街の路上で弁当を売るワゴン

べる商店や、昼時にオフィス街の道端で弁当を売るワゴンなど。普通、道路や公園では個人が勝手に占有することを避けるために、さまざまな使用制限が課される。

だが、こうした制限が行き過ぎると、禁止事項ばかりが目立ち始め、誰もそこによりつかなくなってしまう。みんなのものであるはずのパブリックスペースが、誰のものでもない殺風景な場所になるおそれが出てくる。

誰のものでもなくなってしまうパブリックスペースを、使い勝手が良いように少し手を加えることを、パブリックスペースの「カスタマイズ」と呼ぶことにする<sup>3)</sup>。カスタマイズとは、ICT業界では、コンピュータのハードやソフトをユーザ

が使い勝手が良いように改造することだそうだ。市民がパブリックスペースをカスタマイズすることによって都市がいつそう魅力的になれば、市民主導の都市デザインのひとつの方法が見つかるかもしれない。

## パブリックスペースの構図

パブリック プライベートという図式は、普通、屋外 屋内という図式と同じ軸上で理解される。住宅などの建物の内側は私的領域で、道路や公園は公的領域といった具合である。そして普通は、私的領域は民間が、公的領域は行政が所有・管理する。

しかし、実際の都市空間はそれほど単純ではない。図1は、さまざまなパブリックスペースを、ウチ ソト軸(縦軸)とパブリック プライベート軸(横軸)とが作る座標平面上に置いてみたものである。右上の象限には代表的なパブリックスペースが位置するが、都市には、屋内だけれど公共性が高い空間(右下の象限)や、屋外だけれど私的に使用される空間(左上の象限)がそこかしこにある。前者は商業施設や文化施設などを、後者は花見の宴会やストリートダンスなどを思い浮かべていただきたい。パブリックスペースの多様な魅力を探るには、ここにもっと注目すべきだと思う。筆者は二〇年ほど前、こうした状況を、「インテリアのエグステリア化」と、「エグステリアのインテリア化」と名づけ、大阪のキタとミナミの盛

り場の特性と重ね合わせて説明したことがある<sup>4</sup>。すなわち、キタでは阪急三番街やギヤレ大阪のように、商業施設や地下街などの内部空間を外部空間のように演出する例が目立つ。それに対して、ミナミでは路上や公園などの外部空間を室内のように気ままにくつろいで使う若者たちが多い。そのような使い方が、それぞれの盛り場の個性を生んだのだと指摘した。

この区分が今も通用するのか、またそれが大阪にしか当てはまらない特徴なのかどうかは怪しい。市民や来街者にしてみれば、ウチソトに関わらず、そこが快適かどうかに関心がある。エグステリア化やインテリア化は、建物や道路や公園をより魅力的かつ快適にするための方法、いいかえると、市民や来街者が、私の店、私の道、私の街にカスタマイズするためのきっかけなのである。

## カスタマイズの仕掛け ソフトとハード

当然ながら、対象とする空間の性格によって、カスタマイズの方法や可能性は異なる。場合によっては、何の空間的改造をしなくともカスタマイズはできる。空間的改造の程度の少ないものから順に説明してみよう。

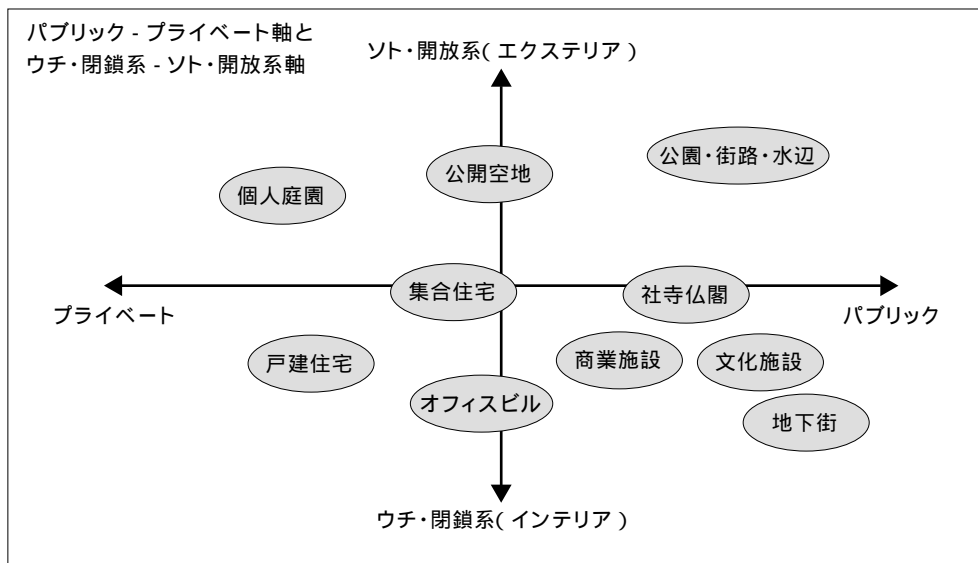
第一は、名前をつけること、ただそれだけである。アメリカ村の御津街園は、「三角公園」、架け替え前の戎橋は、「ひっかけ橋」という通称をつけられて、いつそう若者たちの身近な場所になっ

企業が広告効果をねらってスタジアムなどの命名権を買い取るのとは違う。公園の一本の木やベンチに、一人ひとりが「つそりと勝手に名前をつけるだけでもよい。それだけで街との距離が縮まる。人気漫画コンピ麒麟の田村裕の自伝<sup>5</sup>に登場する「まきふん公園」などは、カスタマイズの典型例である。子供はカスタマイズの天才だと思っ。

第二は、お気に入りの居場所を見つけること。「まきふん公園」命名のもとになった巻き貝に似た滑り台や近くの図書館は、田村少年の絶



大阪ミナミのアメリカ村にある通称「三角公園」にて



【図1】

好の居場所だつた。  
 「ホームレス中学生」でなくとも、街の中に自分の指定席を見つければ楽しい作業である。たとえば、朝の散歩のときに必ず立ち寄る公園のベンチ。いつもの通勤電車でひそかに決めている指定席。行きつけのバーのカウンター席。お気

に入りの居場所が決まると、その環境に注意を払うようになる。汚れていたり壊れていたりしないよう気にかける。誰かに先を越されていると少し悲しくなるが、文句をいうわけにはいかない。自分と同じ感性の持ち主だと思つて納得する。パブリックスペースにたくさんの居場所を発見できる街は、いい街である。

以上、ふたつの方法は、その場所に何ら手を加えずにできる、自分だけが知っているささやかなカスタマイズ法である。それに対して次のふたつは空間的な改造を伴う。

第三は、自分たちで独自のしつらえを施したり、装いを凝らしたりすること。古いUR賃貸住宅などのオープンスペースで、住民が花や野菜を育てている風景を目にすることがある。堅いことをいえば、管理者の許可を得る必要があるのだが、殺風景な場所にいると、それを与えてくれる。管理者も黙認しているのだらう。

街路樹の根元に近くの住民が季節の花を植えたり、プランターを道端に置いたりして、近所の人の目を楽しませてくれる風景も時おり目にする。通行の邪魔にさえならなければ、目くじらを立てる人はいないだらう。

めつたに列車が通らない鉄道貨物線の線路脇に花が植えられているのを見たこともある。少々危険を伴うが、なぜかほつとする風景である。

戦前の船場では道幅を広げるために、軒切りと建築線指定(6)がなされた。それ



御堂筋の緩速車線に設けられたニットカフェ(心齋橋付近、2006年秋の御堂筋オープンフェスタにて)

が沿道の民地上に帯状のセミパブリックスペースとなつて今も残されている。この曖昧な領域は、土地所有者が商品や広告物などを置いて占有していることが多いのだが、デザインによっては、街角のイメージアップにつながるしつらえ装置になる。以前に学生たちが調査したところ、おしゃれな置き看板などを置いた演出を積極的に評価する答えが多かつた(7)。

第四は、さらにすすんで、そこをステージのように使いこなすことである。今や日本でも市民

パブリックスペースの多様なたのしみ

権を得たかのように見えるオープンカフェは、居心地の良い休憩場所でありながら、行き交う人の視線を受ける舞台ともいえる。夏になると鴨川に登場する納涼床は優れたカスタマイズの例だと思ふ。社会実験と称して、御堂筋の緩速車線や大川の水上で行われたオープンカフェイベントは、カスタマイズの楽しさを示してくれた。路上でのパレードやマラソンなどのイベントも、一時的なカスタマイズの例といえるだろう。

ステージのよつにすると、大がかりな工事が必要とは限らない。たとえばO.C.A.T.ビル北側の広場は、壁に鏡を貼り付けただけで、ストリートダンサーの練習場になった。ほんのちよつとした工夫が若者の行動を引き起こす。

## 都心居住の醍醐味

近年、都心居住の声がかまびすしいが、都心に住むことの魅力とは、決してタワーマンションの最上階から夜景をながめることだけではない。また群衆の中に紛れ込んで、匿名の生活をするここの快楽もわからないが、それだけでは長続きしない。都心居住の魅力は、都市のさまざまなパブリックスペースの中に、どれだけ多く「お気に入りの場所」を見つけて使いこなせるかにかかっている。使いこなすためには、それぞれの場所に対して何らかの働きかけが必要である。働きかけて、その反応を確認しながら、場所との距離を縮め、自分にとっての意味を確認

していく。それがカスタマイズということであり、カスタマイズできる都市ほど、ふところの深い都市だといつてよい。

その過程では、必ずといってよいほど、その場所でも他人とのコミュニケーションが生まれる。交流の中から、お気に入りの場所が浮かび上がってくる。都心居住を楽しむためには、これを面倒がってはいけない。

だから、空間のカスタマイズとは、決して自分勝手でもがままな行為ではない。単なる不法占拠でもない。他者に不快感を与えないことではもちろんない。ルールや作法のようなものが要求される。カスタマイズはヴァンダリズム<sup>8)</sup>とは無縁の概念である。

それでは、カスタマイズを受け入れられるパブリックスペースの条件とは、どのようなものだろうか。空間の質としては、人の行動を誘発するようなデザインと、その行動を受け止められる強靱さが求められる。また、市民が役割を自覚したマネジメント体制を確立していることも必要である。

今までは日本ではパブリックという概念は官のものとして理解されがちだった。民が出し合つて共空間が生み出されてきたという本来の姿を思い起こせば、カスタマイズというのは、きわめて自然な行為なのだと思ふ。

CEL

- (1) 建築基準法による容積率等の特例制度。一定の公開空地を有して、市街地環境の整備改善に資すると認められると建築物の容積率と高さ制限が緩和される。
- (2) 都心の遊休地などで、一体的かつ総合的な市街地の再開発を実施する地区計画制度。民有地を活用しながら

公共的な空気を計画的につくることができ。

(3) 「環境のカスタマイズ」という言葉をすいぶん前に聞いた。どこで聞いたのか覚えていないが、爾来私の耳にこびりついている。若手のランドスケープアーキテクトで構成される集団「andscape Explorer」は、マンヒスティック・ランドスケープ<sup>9)</sup>(学芸出版社 二〇〇六)において類似の視点を示し、多数の事例写真で説明を試みている。

(4) 拙著「インテリア都市大阪」SD 一九八八年一月号 鹿島出版会、拙著「インテリア都市 鳴海・橋爪編」商都のコンモロジ「TBSブリタニカ 一九九〇」拙著「川が流れカニが動く都市」SOFT創刊「言」(財)大阪都市協会 一九九一など。

(5) 田村裕「ホームレス中学生」ワニブックス二〇〇七

(6) 船場建築後退線という。延べ床面積の増加、歩行者空間の確保等を目的として、旧市街地建築物法第七条但書に基づき昭和十四年四月に大阪府告示第四〇四号によって指定された。現在では船場建築後退線は建築基準法附則第五項の規定によって建築基準法第四二条第一項第五号の規定による道路の境界線とみなされている。

(7) 被験者となった女子大学生にレンズ付フィルムを渡し、当該地域内で「好きな風景」「嫌いな風景」「気なる風景」を自由に撮影させ、その被写体と添付されたコメントを分析した結果である。稲葉はるか「来街者に注目される盛り場の空間構成に関する研究」南船場・東心斎橋を事例に「武庫川女子大学卒業論文 二〇〇三」

(8) 都市空間の様々な施設や場所を破壊、破壊する行為の総称。ストリートフアンチャーの破壊や落書きなど。

角野 幸博(かど の ゆきひろ)

関西学院大学総合政策学部総合政策学科教授。一九五五年生まれ。七八年京都大学工学部建築学科卒業。八〇年同大学院修士課程、八四年大阪大学大学院博士後期課程修了。福井工業大学非常勤講師、電通勤務、武庫川女子大学生活環境学部教授などを経て現職。都市論の視点から、ホテル、ミュージアムにも関心を寄せる。主な著書は、「郊外の20世紀」テーマを追い求めた住宅地<sup>10)</sup>(学芸出版社)、「都市のリ・デザイン」(共著、学芸出版社)など。